

平成 28 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 友之会

平成 29 年 3 月 31 日

◆活動成果

平成 28 年度も引き続き法人認知度向上、協力者、賛同者および利用登録者の増加を目標にし、多くの方々に支えられながら継続的な活動を行いました。

高齢者に対して相談・依頼・困りごとの問題解決を図りながら、精神的、心理的支援に重点を置き取り組ました。利用者登録の減少はあるものの（死亡の為）、新規登録もあるので、利用者（41 名）の概ね維持することとなりました。

また、高齢者（生産者）から余剰の野菜を取りまとめ、消費者地域（障がい者施設）に搬送し農作物を捨てることなく販売先を作る「野菜の生産・販売を通じた生きがい支援事業」が「独立行政法人福祉医療機構助成事業」の認定を受ける事が出来ました。

高齢者（生産者）は自分たちの野菜が商品になり、目的を持ち意欲的になることで、生きがい支援へと繋げていく事が出来ました。

消費者地域（障がい者施設）も少量でも低価格で購入できることで、地域住民に安心して低価格の野菜を提供することによって、障がい者は地域消費者との交流を通して就労支援訓練となり、地域住民の理解を深めることが出来ました。

高齢者も障がい者も、支援を受けるだけでなく、「支え手」となり、地域コミュニティへ参画することが出来ました。

※野菜の生産・販売を通じた生きがい支援事業」が神戸新聞（神戸版・平成 28 年 12 月 8 日付）に掲載されました。

◆事業内容

(1) 高齢者の自立及び社会参加支援事業

- ① 電話でのコミュニケーション、訪問による直接会話実施しました。楽しく明るく送る生活として、カラオケ、食事の企画、日常の不便を解消するために、通院、買い物の同行、必要品の訪問時買い届け等々を引き続き行いました。
- ② 利用登録者が相互に電話番号を知る機会が増えたことで、早朝から安否確認に近いコミュニケーションが活発におこなわれるようになりました。
- ③ 高齢者（野菜生産者）の余剰野菜をコーディネートすることにより、販売者（障がい者施設）と地域住民との交流がスムーズにいく事が出来ました。

(2) 野菜の生産・販売流通を通じた生きがい就労支援事業

登録利用者は就農経験が多いため、自己食料ぶんとして生産した余剰野菜を障がい者就労支援施設に提供し、それぞれ（高齢者・障がい者）の以下のとおり就労支援を行いました。

①事業内容：野菜の生産・流通を通じた生きがい就労活動及び社会参加活動

活動期間：平成 28 年 4 月 4 日～平成 29 年 3 月 27 日まで

全 50 回実施 参加延べ人数約人 1,480 名（毎回概ね 30 名参加）

スタッフ 4 名による稼働

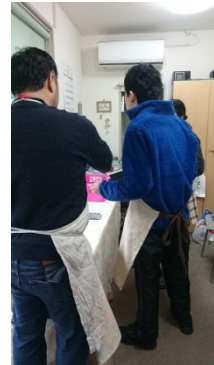
就労支援施設への野菜コーディネート

活動内容	活動月日
ひらめの家	4/4、25
神戸ライフケア（ジャングル）	5/23、30 6/6、13、20、27 7/4、11、25 8/1、8、15、22、29 9/5、12、26 10/3、 17、24、31 11/7、14、21、28 12/5、12、 19、26 1/16、23、30 2/6、13、20、27 3/6、13、27
木の芽福祉会家族会支援	4/10 6/12 7/10 8/7 9/11 10/9 11/13 2/12 3/12



▲神戸新聞 :神戸版平成 28 年 12 月 8 日付け

▲手作りのタペストリー・案内チラシ



▲神戸ライフケア協会 野菜展示の様子

▲障害者就労の様子



▲地域住民の方の集まる様子

▲野菜以外の加工商品等

②事業内容：収穫体験コーディネート

活動期間：平成 28 年 6 月（南あわじ市たまねぎ）2 回 参加延べ人数 12 人

平成 28 年 10 月（篠山市枝豆）4 回実施 参加延べ人数 55 人

全 6 回 スタッフ 7 名による稼働

南あわじ市農園（たまねぎ収穫）	6/11、12
-----------------	---------



▲6 月 11 日



▲6 月 12 日

篠山市農園（枝豆収穫）

10/8、16、27、30



▲10月8日①



▲10月8日②



▲10月16日①



← 無農薬なので虫も多い。



▲10月16日②



▲10月27日①



▲10月27日②

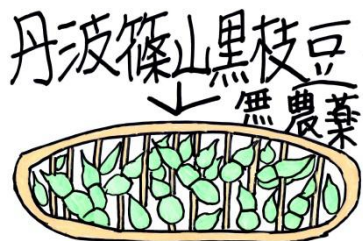


▲10月30日①



▲10月30日②

車が田んぼに落ち込んだ様子





利用者が自らすすんで描きました。

③事業内容：地域イベント参加活動

活動期間：平成 28 年 11 月 全 2 回実施 参加延べ人数約 300 人
スタッフ 5 名による稼働

会場	会合名	参加日
神戸市立地域人材支援センター	ハートフェスタ 2016	11/3
神戸ケアライフ協会	秋まつり	11/12

■ ハートフェスタ 2016 11/3



▲イベントの様子



▲野菜の展示販売の様子

■ 神戸ケアライフ協会秋祭り 11/12



◆結果と波及効果

高齢者（生産者）は新しい野菜の栽培にチャレンジや、また野菜の包装を工夫したり、加工商品を作ったりして、創造意欲を持つことで生きがいに繋がり、健康維持に大いに役立ちました。それに伴い、一次予防（引きこもり・認知症・介護）になり、健康維持、孤立防止に役立ちました。

障がい者からは、多くの人々と関わりを持つことで、家族との会話も増え気持ちが前向きになり、以前より外へ出ることが増えたと感じているという意見もあり、大きな成果が得られました。

また、連携先の西紀南町づくり協議会主催で黒豆味噌作りを篠山南小学校で行いました。枝豆収穫に参加した7名（神戸在住）も参加し、黒豆味噌作りを体験することとなりました。



▲篠山南小学校：黒豆味噌作りの様子

今回の事業を通して、地域の繋がりや輪が広がっていきました。高齢者、障がい者、地域住民（児童含む）など多くの人に関わる事によって、それぞれの個性を理解し、自然に役割の生まれやすい環境を作り出すことができました。

これからも、野菜の生産・流通を通して、高齢者、障がい者の生きがいに繋げ、また持続することで地域住民の参加、多様性の相互理解を深めていくように努めてまいります。

